

国語科学習指導案

単元名「複数の情報を関連づけて考えをまとめる」 【学指要領：知（2）ア、イ・思B（1）ウ】

I 単元の構想

1 単元の目標及び児童（生徒）の実態

	目 標	児童（生徒）の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。（2）ア 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。（2）イ 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から情報を読み取ることができる生徒が多いが、その情報を根拠として活用したり、比べたり、違った視点から見たりすることは苦手な生徒が多い。 タブレット端末を使用した授業には慣れているが、「情報の取り扱い方」に関する授業を受けるのは初めてである。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。Bウ 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見や考えを文章で表現したりすることは苦手な生徒が多い。答えが出るのを待ったり、他者の意見に付和雷同してしまったりする傾向が見られる生徒もいる。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に情報と情報との関係に注意して内容を解釈し、学習の見通しをもって話し合い、考えをまとめようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の単元で振り返りをしっかり書いており、見通しをもって、学習に取り組む。 発言が多く、活発に他者と関わり合いながら学習することができる。

2 評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ① 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ② 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使用している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ① 根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ① 積極的に情報と情報との関係に注意して内容を解釈し、学習の見通しをもって話し合い、考えをまとめようとしている。

3 指導及び評価、ICT活用の計画（全5時間：本時第2時） ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	主
1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の見通しを持つ。（あ） 資料Bを読んで、筆者の意見を捉える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 単元の課題 教科書のデータと、〇〇市の防災データを比べて自分の考えを短い文章でまとめよう。 </div>			①
2	<ul style="list-style-type: none"> 資料Aの項目から読み取れることをまとめる。 いくつかの項目を関連付けて全国的な課題や良いところを考える。（あ）（い） 	①		①
3	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇市の防災データから読み取れることをまとめる。 いくつかの項目を関連付けて〇〇市の課題や良いところを考える。（あ）（い）（a） 	①		①
4	<ul style="list-style-type: none"> 内閣府のデータと〇〇市のアンケート結果を比べて、「私たち〇〇市民が持つべき防災意識」というテーマで文章にまとめる。（あ）（う）（a） 		①	
5	<ul style="list-style-type: none"> 出典や参考資料の示し方を学習し、文章を仕上げる。（あ）（う）（a） 	②		①

*活用する学習支援ソフト等：（あ）Google スプレッドシート （い）Google ジャムボード
（う）ミライシード オクリンク

*活用するコンテンツ等：（a）第25回「市民の声」アンケート（令和5年7月実施）

4 言語活動の価値

教科書のデータと、〇〇市の防災データを比べるという言語活動は、教材と実生活とを結びつける活動である。教科書にある文献の「資料B」を切り口として、グラフの「資料A」と同じくグラフの「〇〇市のデータ」を比べることで、より比較する観点が分かりやすくなり、生徒が「複数の情報を関連付ける」という今回の学習に取り組みやすくなる考えた。2つのデータを対比しながら読み取りをしたうえで、「私たち〇〇市民が持つべき防災意識」というテーマで文章にまとめていく。この言語活動を通して、読み取ったことを根拠に自分の思いや考えを確かなものにすることができる力を涵養していきたい。また、実生活につながる防災教育の一助となることも期待している。

II 本時の学習（2／5）

1 ねらい 資料Aから読み取った内容についてジャムボードを使い、情報を整理し、交流活動を通して、複数の情報を比較、関連付けて資料を理解できるようにする。

2 展開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕	主な発問 〇指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 静かに漢字スキルを進める時間を取る。（3分） 2 前時の学習内容を振り返り、本時のめあてを確認する。（5分） <めあて> 交流を通して、資料Aを詳しく読み取ろう。 S：データを読み取るだけでいいのかな。 S：「詳しく」ってどういうことかな。	〇落ち着いて授業に入ることができるように、漢字の学習に取り組ませる。 〇学習の見通しをもつことができるように、モニター画面に振り返りシートを映し出しておく。 【★一覧表示】
3 個別に資料Aから読み取れることをノートに書いていく。（7分） 「防災に関する資料Aからはどんなことが読み取れるでしょうか。」 S：防災訓練に参加している人は少ないなあ。 S：食料や衣料品、日用品を準備している人が多い。	〇どんな些細なことでも、箇条書きでよいのでたくさん書いてみるように促す。 〇書き進めることができない生徒には、グラフの数値の一番高いところ、一番低いところなどに注意を向けると良いことを助言する。
4 集団になって、資料Aを基にジャムボードで考えを共有し、交流する。（15分）【★共同編集・交流】 「資料Aから読み取った情報を関連付けたとき、どのようなことが言えるでしょうか。」 S：日用品は準備しているのに、衣類や毛布は準備していないのはなぜだろう。 S：家の中で済むことは割合が高くなっているんじゃないかな？ 5 ジャムボードの情報と交流の結果より、改めて資料Aを活用し、読み取れることをもう一度ノートに書いてみる。（5分） S：食料などの必要性が高くわかりやすいものは準備をするが、毛布などの容量が大きく季節によってはいらなものへの意識は低い傾向が分かるな。 S：家の中でできる手軽な準備はしていることから防災意識が全くないわけではないが、防災訓練に参加するほど意識が高い人は意外と少ないな。	〇誰が書いた付箋なのかを判別できるように、班員ごとに色の指定をしておく。 〇ジャムボードの操作支援を行う。 〇交流が円滑に進められるように、原因と結果、意見と根拠など話し合いの視点を伝える。 〇情報を整理するために、ある程度出しきったら同じ内容の付箋を動かしてグルーピングするよう指示する。 【★一覧表示】 〇関連付けて詳しく書けるように、二つ以上の項目を比べると何かわかることはあるか問いかける。 〇自身の考えの深化が可視化されるように、最初に書いた読み取りよりも詳しい内容をノートに文章で表記するよう伝える。 ◆評価項目（知①） ノートの記述内容から「原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について考え、理解している。」を評価する。
6 記入した考えを発表してまとめとし、学習内容を振り返る。（10分） 【★データの保存】 7 次回は〇〇市の防災データを読み取ることを確認する。	〇各班の良い読み取りができている生徒を意図的に指名し、今回の「詳しく読み取る」ということがどんなことが共有できるように、良い内容の生徒を称賛する。 〇学習の見通しを持つために、クラスルーム内の振り返りシートに本時の振り返りを記入し、次時の学習活動を確認させる。 【★一覧表示】
<振り返り> S：自分だけでは、グラフの特徴的な部分のみを少しだけしか読み取れなかったが、交流を通して「そういう見方もあるか。」と気づくことができ、新しい観点が生まれ、より詳しく読み取ることができた。	